

事業評価表

主 要			
事業名	くまもとアートポリス推進費	整理番号	3 - 7 - 6
プロジェクト名	くまもと文化の創造と継承	開始年度	昭和 63 年度
評価責任者	土木部建築課 主幹(アートポリス・UD班長) 柴原眞幸	終了年度	平成 - 年度

1 事業の目的・概要(PLAN1)

<p>(1)事業の目的・実現すべき成果等 (目的)熊本県下を舞台に豊かな自然や歴史、風土を生かしながら、後世に残り得る文化的資産として優れた建造物を造る。人々の都市文化、建築文化などへの関心を高め、地域の活性化に資する熊本独自の豊かな生活空間を創造する。 (課題・問題点等)日本の近代の建築は、ごくありふれた建物を20年程度のサイクルで建て替え、鉄骨、鉄筋コンクリートになってもこのサイクルは変わっていない状況が課題。 (事業実施効果)豊かな生活空間を創造するため、県民の環境デザインに対する意識、ひいては都市文化、建築文化の向上を図り、後世に文化資産として残り得る質の高い建造物が造られる社会とする。</p>
<p>(2)手段 ・県民を対象にアートポリス推進賞の表彰による顕彰事業を実施。 ・県民を対象に講演会、シンポジウムを開催。 ・県民、県外を対象に広報誌を発行。 ・建築実務面での相談や予算の相談等の人的支援。</p>
<p>(3)事業の仕組み・体系図</p> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;"> </div>
<p>根拠法令等</p>

2 投入資源と指標(PLAN2・DO)

単位:千円 「換算人件費ウ」は「担当職員数イ」×6,000千円で計算

投入資源	H15	H16	H17(見込)	H18(予算)
事業費 ア	16,190	13,040	12,618	12,138
(うち県費)	(16,190)	(13,040)	(12,618)	(12,138)
担当職員数 イ	3.0人	3.0人	3.0人	3.0人
換算人件費 ウ (イ×6,000千円)	18,000	18,000	18,000	18,000
合計 ア+ウ	34,190	31,040	30,618	30,138

「増減分」の数値は累積して増加(減少)する指標の場合のH17増加(減少)値

指標 1	活動指標	H15	H16	H17	増減分	H18
プロジェクト竣工件数 (単位: 件)	目標	3	3	2	-	2
	実績	2	2	0	-	-
	達成率	66.6%	66.6%	0.0%	-	-
指標の説明	プロジェクトの竣工件数(平成17年度末67件)から、アートポリス構想の普及程度を計る。					
目標値の説明	過去3年間の平均値とする。(四捨五入)					
達成状況の説明	H16年度に進行中のプロジェクトが全て竣工した。H17年度は、プロジェクト参加が1件あったが、その竣工についてはH18年度の予定である。					

指標 2	成果指標	H15	H16	H17	増減分	H18
受賞件数 (単位: 件)	目標	4	5	3	-	3
	実績	4	2	3	-	-
	達成率	100.0%	40.0%	100.0%	-	-
指標の説明	プロジェクト参加の建造物が、その年度に建築・景観・土木等分野において受賞した数					
目標値の説明	過去3年間の平均値とする。(四捨五入)					
達成状況の説明	アートポリスによる質の高い建造物を構築することができ、受賞という評価が有り、目標を達成することができた。					
指標 3	成果指標	H15	H16	H17	増減分	H18
海外からの視察依頼者数 (単位: 人)	目標	238	228	298	-	376
	実績	218	543	368	-	-
	達成率	91.5%	238.1%	123.4%	-	-
指標の説明	海外からの視察者数(県対応分)から、経済効果と地域の活性化に寄与していると推測する。					
目標値の説明	過去3年間の平均値とする。					
達成状況の説明	他の課・室との連携を図り、視察者の対応を行うことで海外(特に韓国)からの視察者が増加し、目標を達成することができた。					
参考指標				H15	H16	H17
(単位:)						
指標の説明						

3 事業の評価(CHECK1)

[]内は前年度評価の数値等

評価項目	評価	評点
事業の目標(成果指標等)の達成状況〔評価指標: 海外からの視察依頼者数〕		
a 達成された (根拠: 当該年度の目標100%以上達成)	4点	4点
b 概ね達成された (根拠:)	2点	
c 達成されなかった (根拠:)	0点	
		[0点]
事業の効率性〔評価指標: プロジェクト竣工件数〕		
a 効率性が非常に高かった (根拠:)	2点	0点
b 効率性が認められた (根拠:)	1点	
c 効率性が低かった (根拠: 前年度に比べ指標実績値/投入資源合計が減少)	0点	
d 新規事業でかつ比較可能な類似事業がないため評価が困難	-点	
		[2点]
事業の総合評価(上記 の評価項目を踏まえた総合判定)	総合評価	合計
S(6点) A(5~4点) B(3~2点) C(1点以下)		
S 十分な成果を上げた事業	A	4点
A かなりの成果を上げた事業		
B 一定の成果を上げた事業		
C 当初の目標を達成していないなど、見直しや改善が必要な事業	[B]	[2点]

4 事業推進上の課題(CHECK2)と見直しの内容(ACTION)

課題の内容	見直しの具体的内容 課題ごとに記載
、において、改善のための取り組みを行ったが、課題の克服までには至らず、引き続き課題の検討を行う。	県庁HPの整備をすると共に、人材育成事業として市民大学やアートボリスパネル展を開催することで県民への周知を図る。 建築ガイドの活用や観光ボランティアガイドの研修を通して県民とのパートナーシップの構築を図る。

(参考)

前年度評価で課題とされたこと	改善・見直しの状況 課題ごとに記載
アートボリス構想についての県民への浸透が課題。 アートボリス構想の普及へ向けた県民とのパートナーシップの構築が不十分である。	シンポジウムを2回開催し、県民への周知を図った。また、人材育成事業については、H18に市民大学を開催するため、その準備を行った。 海外視察者へのインフォメーションの整備を行った。建築ガイドについては登録者が4名増えた。

パートナーシップ、ユニバーサルデザイン、環境へ配慮して取り組む内容
PS:事業の推進において大学や建築専門家と協働して行う。 UD・環境:プロジェクトの設計過程における対話でUDに配慮し、後世に残る建造物の長期使用で環境に配慮。

5 県民、有識者(総合計画推進委員会、評価部会等)の意見・提案と対応

意見・提案の内容	対 応